

ヨツボシサragモの交尾体勢

池田博明*

The Copulation Posture of *Strandella quadrimaculata* Araneae : Linyphiidae

Hiroyoshi IKEDA*

ヨツボシサragモ *Strandella quadrimaculata* は雌雄とも体長 3 mm 程度の小型種である。その生態に関する報告は少なく、新海・高野 (1984) に、「成体出現期は5~7月、広葉樹の葉裏に多く、時にシート網を張る」と記述されている程度である。筆者は夜間観察によって野外で本種の交尾体勢を観察した。雌は雄の頭部の凸部をくわえ、雌雄とも葉からぶら下がっていた。野外におけるサragモのぶら下がり交尾の体勢の報告はこれまでにないようである。

調査にあたって便宜を図って下さった吉田嗣郎、伊藤浩見の両氏、共に観察にあたり、有益な助言をして下さった新海明氏に感謝する。

調査地および調査日

調査地は静岡県駿東郡小山町須走 (標高 500 m) のクマザサ群落である。調査は1989年6月3日に交尾、同年6月5日に網型の観察を行い、1990年5月31日から6月1日に再び交尾の観察を行った。

成体雌の網形

成体雌の網はササの葉裏に作られていた。網は葉裏の表面からやや浮かして張られるシート部と、シート部を支持する不規則部から成っていた (図1)。不規則部の大きさは葉の縦方向が8~9 cm、横方向は葉2枚にわたって6 cm程度だった。1枚の葉裏に作られた縦横とも小型の網もあった。クモはシートの中央下面に占座していた。

本種は夜間造網性で、1989年6月5日 (くもり、16時から22時の気温 15~17°C) には18時30分から網を張り出す個体が見られた。

* 〒258 神奈川県足柄上郡大井町金手1099
Kanade 1099, Ōi-machi, Ashigarakami-gun, Kanagawa 258, Japan
1992年2月14日受理

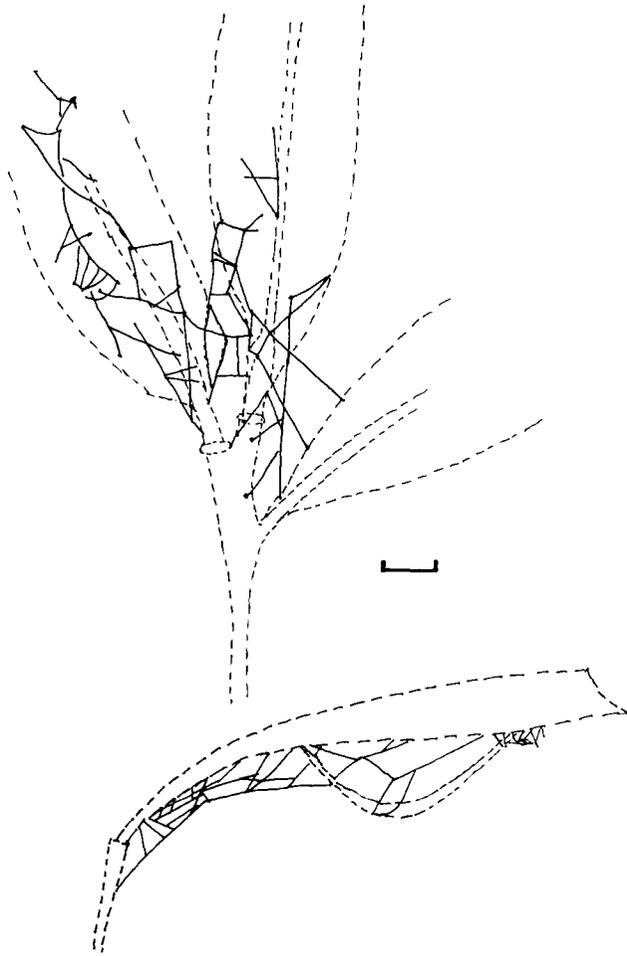


図 1. 成体雌の網（上、ササの葉の下面；下、ササの葉の側面）。点線がササの葉の輪かく、実線がクモの糸を表す（スケールは 10 mm）。

交尾体勢と交尾行動

1989年に4組、1990年に1組、合わせて5組の交尾を観察したが、交尾体勢はどの雌雄の組でも共通であった。

クマザサ葉裏の雌の網の下に雄がぶら下がっており、雌は下向きの雄の頭部の凸部をくわえて、水平に近い体勢になっていた。雌の糸いぼから出たしおり糸は雄の第IV脚先端に触れ、葉裏の雌の網まで伸びていた。雄のI、II、III各脚の先端は雌のそれぞれの脚の先端と触れ合うか、触れ合う位に近づいていた（図 2 a-b）。

雄の右触肢は雌の外雌器左側に挿入された。雄の触肢の血のうが膨張すると同時に雄はI、II、III

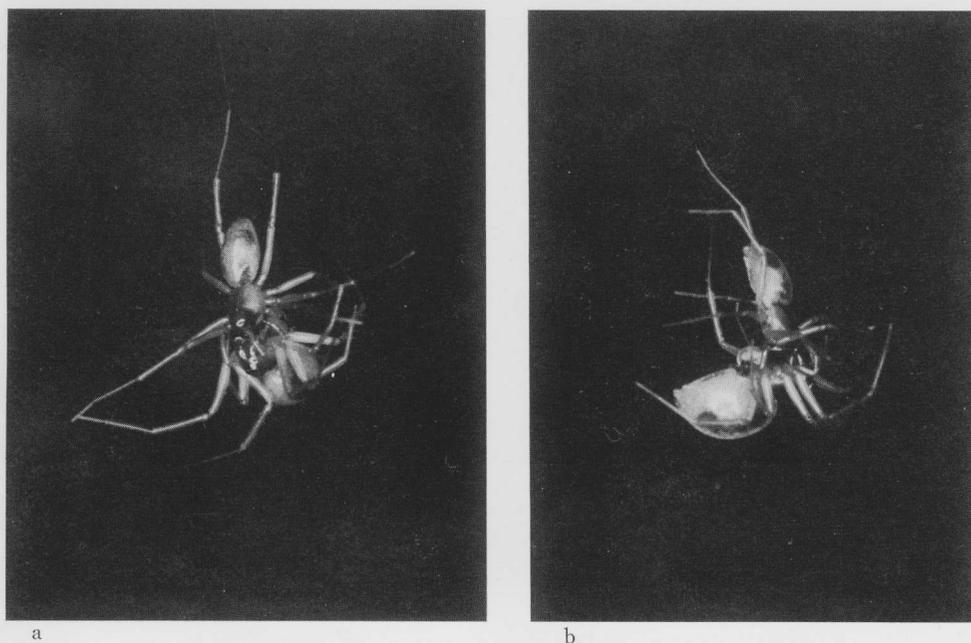


図 2. 交尾体勢. a, 雄の背面から; b, 側面から. いずれも上が雄で下が雌.

各脚をたぐるように動かし、雌もそれに応答するように I, II 各脚を上下に動かすことがあった.

交尾を最初から観察することはできなかった. 交尾途中から雌雄分離までを継続観察できた例では交尾時間は40分であったが、1時間たっても分離せずに交尾していた組を2例確認した. 交尾時間は長く、1時間以上続くものと推定している.

交尾の終了時には、雄が雌を引き上げ、葉裏の網の下面を行ったり来たりしながら、双方が I, II 各脚を打ち合った. その後、雌はしおり糸を引いて移動、雄は下へ落下したり、ほかの葉へ移動したりした. 雄の血のうは雌雄が離れた直後は膨らんでいたが、すぐにしぼんだ.

1989年6月3日19時20分~22時の間に交尾中の雌雄を4組、雌の網内に雄が同居している対を5組、雌のみ3例、雄のみ1例を観察した. これらの雌はすべて成体だった. わずか2日後には同地で交尾行動をしている雌雄を1組も発見できなかったことから、この日あたりが交尾時期の最終段階だったと推定される.

摘 要

野外でヨツボシサラグモ *Strandella quadrimaculata* の交尾を観察した. 交尾は夜間、葉裏から雌雄がぶら下がる体勢で行われた.

引用文献

新海栄一・高野伸二, 1984. フィールド図鑑, クモ. 204 pp. 東海大学出版会, 東京.